様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　５ 月 ２９ 日現在

機関番号：３２４０９
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2017～2022
課題番号：１７Ｋ１３９５６

研究課題名（和文）自殺未遂者を支援する臨床心理士を対象としたトレーニングプログラムの開発

研究課題名（英文）Development of a training program for clinical psychologists supporting suicide attempters.

研究代表者
高井　美智子（Takai, Michiko）

埼玉医科大学・医学部・客員講師

研究者番号：８０６５０８２９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、自殺未遂者の再企図予防において、臨床心理士に必要とされる知識やスキル等を明らかにし、臨床心理士の専門性や独自性に特化した自殺未遂者支援のためのトレーニングプログラムを開発し、その効果を検討した。
臨床心理士に対して、臨床心理学の枠組みを超えた幅広い知識や、自殺予防特有の対人援助スキルにより、自殺未遂者を支援することが求められていた。新型コロナウィルス（COVID-19）の影響で、十分な効果検討が実施できなかったが、本研究で開発されたトレーニングプログラムにより、自殺再企図予防に向けた一定の知識とスキルの習得に寄与することが示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究では、自殺未遂者支援を行う臨床心理士に特化した知識やスキル、そして支援を行う上での困難点を明らかにし、それらを補うトレーニングプログラムを開発した。これにより、自殺再企図予防に必要な一定の知識とスキルを習得し、それらを臨床現場において自殺未遂者への対応をする際に活かせることが示唆された。本研究で得られた成果は、わが国の自殺対策において重要な役割を担う臨床心理士の人材育成を加速させるだけではなく、自殺者数の減少が期待される重要な研究であったと考える。

研究成果の概要（英文）：We identified the knowledge, skills, and roles of clinical psychologists necessary for supporting suicide attempters, developed a training program that were specific to the expertise and uniqueness of clinical psychologist, and examined its effectiveness.
We found that clinical psychologists were expected to have a broad knowledge beyond the framework of clinical psychology such as medicine, pharmacology, and social resources. In addition to proactive communication with other professionals, they were also expected to support individuals at high risk of suicide through skills specific to suicide prevention, such as risk assessment and crisis intervention.
Although the new coronavirus (COVID-19) prevented us from conducting a full effectiveness study, it was suggested that the training program developed in this study would contribute to the acquisition of a certain level of knowledge and skills for the prevention of suicide re-attempt.

研究分野：自殺予防、医療心理学、救急医療

キーワード：自殺未遂　再企図予防　臨床心理士　トレーニングプログラム

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

日本における自殺死亡数が平成 10 年に急増して以降、14 年連続して毎年 3 万人以上が自殺により命を落としていた。自殺死亡数は平成 24 年に 3 万人を下回り、自殺死亡率（人口 10 万対の自殺死亡数）とともに減少傾向を示しているが、自殺死亡率は国際的に未だ高い水準を維持し続けている。平成 24 年 8 月に新たに閣議決定された、「自殺総合対策大綱～誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現を目指して～」においては、“自殺未遂者の再度の自殺を防ぐ”ことが重要施策の１つとして掲げられ、自殺未遂者の再度の自殺を防ぐため、精神科医療体制の充実に加えて、救急医療施設における精神科医療ケアや生活再建の支援が受けられる体制を整備する重要性が明記された。平成 28 年度には、診療報酬改定により、精神科医や看護師、臨床心理士（以下、CP とする）等が、自殺企図により医療機関に入院となった患者に対して生活上の課題や精神疾患の治療継続上の課題等について指導を行うことにより、診療報酬が加算されることが決定された。このようなわが国における自殺未遂者対策の動向を鑑みると、保健医療領域に従事する CP は“自殺未遂者の再度の自殺を防ぐ”重要な役割を担うことができる存在であり、今後、自殺未遂者に対して危機介入を含む自殺未遂者支援を提供することが期待されている[1)]。そのため、より効果的な自殺未遂者支援に取り組むための知識とスキルを身に着けた CP の育成が必要である。

たとえ経験豊富な CP であっても、自殺企図後の間もない患者との臨床面接にのぞむ際、緊張や不安、自信のなさ、焦燥感などの著しいストレスを伴うことがある[2)]。そこには、自殺は予測することが極めて難しい現象であることや、自殺のリスクアセスメントを含む自殺未遂者支援についての知識不足やスキル面の不安と、それらを補うトレーニングプログラムや教育が整備されていない問題がある[3)]。わが国においても、自殺未遂者支援を行う人材の不足や育成するシステムが欠如しているとの指摘があり[4)]、CP を対象にした自殺未遂者支援に関する知識やスキル等の向上に資するトレーニングプログラムの開発を行うことが必要である。

これまでの研究で、保健師や看護師などの保健医療領域で活動する対人援助職等を対象に実施された『自殺危機初期介入ワークショップ』は、自殺ハイリスク者への初期介入に必要な知識とスキルに対する自己効力感の向上や、効果的に自殺予防に取り組むための態度の改善に有益であることが示唆されている[5)]。しかしながら、CP に特化した自殺ハイリスク者等の支援に関する研究はなく、CP が自殺未遂者の再度の自殺を防ぐために支援する際に必要とされる知識やスキルの向上に資するトレーニングプログラムに、どのような要素を盛り込むべきか十分な検討がなされていない。そのため、わが国の重要施策である自殺未遂者支援へのより一層の貢献が期待されている CP であるが、その専門性や独自性を活かして自殺未遂者を効果的に支援するための、適切な知識やスキルが十分でない可能性がある。

２．研究の目的

本研究では、自殺未遂者支援を行う機会のある CP を対象に、自殺未遂者の再度の自殺を防ぐための支援に資する知識やスキル等を明らかにし、CP の専門性や独自性に特化した自殺未遂者支援のためのトレーニングプログラムを開発し、その効果を検討することを目的とした。

３．研究の方法

本研究では、以下の方法で研究目的の達成を目指した。

(1) CP による自殺未遂者支援に関する国内外の文献のレビュー

電子データベース（PubMed、Ovid、医中誌等）を用いて、自殺未遂者支援と臨床心理士をキーワードに国内外の関連文献を整理しレビューを行った。

(2) 自殺未遂者支援に携わる対人援助職からのヒアリングの実施

方法：*対象者.* 自殺未遂者の再企図予防に向けた支援を CP と協働して行った経験のある対人援助職 11 名（男性 5 名、女性 6 名；平均年齢 45.5±7.8 歳；救急部専従の精神科医 1 名、リエゾン精神科医 1 名、リエゾン看護師 2 名、精神保健福祉士 3 名、高校教諭 1 名、養護教諭 1 名、精神保健部門の行政職員 2 名；自殺未遂者への治療または再企図予防に向けた支援の経験年数 11.5±7.6 年）を対象とした。*調査項目.* 半構造化面接により以下の情報を収集した。個人属性（年齢、性別、資格、職域、専門職の経験年数、自殺未遂者への治療または再企図予防に向けた支援の経験年数、CP と協働した頻度）、自殺未遂者の再企図予防における CP との協働について（自由回答）、自殺未遂者の再企図予防において CP に求める「知識」、「スキル」、「役割」について（自由回答）。*手続き.* 2017 年 9 月から 11 月までの期間に縁故法により対象者を募集し、調査を実施した。対象者に対し、研究の目的、個人の権利擁護および個人情報の保護等に関して記載した説明書を用いて研究への協力を依頼した。書面にて同意が得られた対象者に対して、半構造化面接を実施し調査項目についての情報を収集した。なお、調査面接は対象者の職場もしくは貸会議室でプライバシーが確保される状況で実施された。本研究は倫理審査委員会の承認を得て実施された。*分析方法.* 保健医療ならび

に教育の現場において 10 年以上自殺ハイリスク者に関わる臨床実践に携わってきた CP3 名が、上記面接結果について内容分析を実施し、自殺未遂者の再企図予防において CP が対人援助職に求められる知識とスキルに分類し整理した。具体的には、KJ 法[6]を援用し、半構造化面接から収集された内容を付箋に書き出し、内容が近いカードを集めグループ化し、集めた付箋の内容にふさわしいタイトルをつけていき、グループを小グループから次第に大きなグループとした。その後、作成された内容の近いグループを空間的に近く配置し、知識やスキルの目的や方法等の関係性を想定し構造化した。

(3)トレーニングプログラム作成

① (2) のヒアリング結果より抽出された項目をもとに、本研究の研究協力者らとデルファイ法を用いて、トレーニングプログラムに盛り込むべき内容を整理した。具体的なプログラム内容および構成を検討し、トレーニングプログラムを作成した。

② トレーニングプログラムで使用する資材および実施マニュアルの詳細を検討し、作成した。

③ トレーニングプログラムの効果指標について、自殺や自殺未遂者に関する知識、スキル、自己効力感を測定するための既存の尺度を参考にし、トレーニングプログラムの内容に沿った独自の質問紙を作成した。

(4) トレーニングプログラムの実施可能性の検討

① 自殺未遂者支援に造詣のある対人援助職および学識経験者 2 名より、トレーニングプログラム案についてのヒアリングを行い、その実施可能性を検討した。

② (4) ①のヒアリング結果を踏まえ、トレーニングプログラムおよび実施マニュアルを改定した。

(5) トレーニングプログラムの試行

方法：*対象者.* 保健医療領域で自殺未遂者に対応する機会のある CP7 名（女性 7 名；平均年齢 29.3±2.1 歳）を対象とした。*質問紙.* トレーニングプログラムの効果測定のための質問紙の構成は以下のとおりである。

・自殺に関する知識尺度（本研究のために独自に作成）
・自殺未遂者支援の準備性尺度（本研究のために独自に作成）
・自殺未遂支援に関する自己効力感尺度（ゲートキーパー自己効力感尺度（Gatekeeper Self－Efficacy Scale）：以下 GKSES）[7]
・自殺の危機介入スキル尺度（SIRI）短縮版[8]
・研修満足度、理解度、難易度、研修の感想等（自由記述）
・研究対象者の属性（年齢、性別、職域、CP の経験年数、自殺未遂支援の経験の有無）

手続き. 対象者に対して、研究代表者から本研究についての説明を口頭と書面にて行った。研究参加に同意した対象者は、トレーニングプログラム開始前と終了後に質問紙に記入し、提出用封筒に入れ、退室時に受付窓口に提出した。対象者は、トレーニングプログラム終了 4 週間後に質問紙に記入し、返信用封筒を用いて郵送で提出した。本研究は倫理審査委員会の承認を得て実施された。*分析方法.* トレーニングプログラムに参加し、全ての質問紙に回答した 7 名の対象者について、まず、知識尺度、準備性尺度、自己効力感尺度、自殺の危機介入スキル尺度（SIRI）短縮版の尺度得点の平均値および標準偏差を算出した。各尺度得点が、トレーニングプログラムの前後と 4 週間後で変化があったかを検討するため、t 検定（対応あり）ならびに 1 要因 3 水準の分散分析を実施した。

(6) トレーニングプログラムの改訂

① トレーニングプログラムの試行から得られた問題点や改善すべき点を踏まえて、本研究の研究代表者と研究協力者でプログラム内容、資材、実施マニュアルを必要に応じて改定した。

４．研究成果

(1) 自殺未遂者の再企図予防において臨床心理士に求められる「知識」と「スキル」

自殺未遂者の再企図予防において、対人援助職が CP に求める「知識」としては、医学的知識、自殺のリスク評価、臨床心理的援助、社会資源の 4 つのカテゴリが抽出された（表 1）。医療職（医師 2 名、看護師 2 名）特有の意見としては、せん妄を含む意識障害や身体疾患についての知識が多く、福祉職（3 名）からの意見としては、自殺未遂者の心理的特徴や自殺企図に至った心理社会的背景等を評価するための知識が多かった。教育機関や行政機

表1．自殺未遂者支援において対人援助職がCPに求める「知識」

カテゴリ	サブカテゴリ（コード数）	具体例
医学的知識	身体疾患に関する知識（2）	自殺未遂者にとって、身体の病気のことをCPに相談するのは難しい
		身体症状（データ、モニターの読み方、せん妄）の知識
	精神医学的知識（4）	せん妄や意識障害の知識
		精神疾患の重症度についての知識
		高齢者の自殺企図も多いため、認知症に関する知識
	医学・薬学の知識（3）	患者の飲んでいる薬に関する知識
		心理学に加えて医学的知識が必要
		幅広で漠然とした医学的知識を持ってほしい
自殺のリスク評価	自殺リスクの評価についての知識（5）	自殺リスクの評価についての知識（企図に至る背景、など）
		自殺未遂者や自殺ハイリスク者についての知識
		自殺に関する知識や対応方法について
臨床心理的援助	心理的援助に関する知識（7）	生徒への心理的な対応について
		心理教育
		カウンセリングの知識
		患者の心理面への対応方法について
社会資源	社会資源医ついての知識（3）	制度を含めた幅広い社会資源をもっと知ったほうが良いと思う
		外部の相談場所・社会資源についての知識
		高齢者も多いため、介護や生活環境についての知識

関の職員（4 名）からは、精神疾患や薬の知識、他の支援機関の情報についての意見が多く挙げられた。職種を問わず共通した意見としては、自殺のリスク評価に関する知識、心理的援助等の臨床心理学の知識、そして制度や相談窓口等の社会資源に関する知識であった。

CP に求める「スキル」では、介入スキル、コミュニケーションスキル、評価スキル、臨床現場での適応スキルの 4 つのカテゴリを抽出した（表 2）。職種による違いは認められず、CP としての基本的な面接スキルや心理的援助だけでなく、ソーシャルワークも含んだ介入のスキル、自殺未遂者とのコミュニケーションや他職種に CP の専門性を理解してもらうためのコミュニケーションスキル、身体症状や自殺リスクを評価するスキル、そして、現場の雰囲気や状況に合わせて他職種とスムーズな連携をはかる等の臨床現場で適応的に活動できるスキルが求められていた。

表2．自殺未遂者支援において対人援助職がCPに求める「スキル」

カテゴリ	サブカテゴリ（コード数）	具体例
介入スキル	心理面接の基本的スキル（3）	共感、傾聴のスキル 心理面接 面接スキル
	未遂者への心理的援助スキル（5）	心理教育の導入 自殺未遂者支援の経験を積んだ方が良い CPの枠を超えて自殺未遂者支援をするスキル 抱え込む傾向があるCPが多いため、ある程度のところで手放すスキル 精神療法（特にCBT）のスキル
	ソーシャルワークのスキル（4）	箱の中だけでは終わらせない、他職種にコンタクトをとれる力 他機関との連携や患者のコーディネート方法 児童相談所等の他の機関へのつなぎ方へのアドバイスが出来ると良い CP以上の知識やスキル（特に、ソーシャルワーク的な部分）
コミュニケーションスキル	CPの専門性を他職種に理解してもらうスキル（3）	ただ話を聴くだけなら誰でも出来るので、CPとしての独自性を示してほしい CPがどのような仕事が出来るのかをもっと示してほしい CPの独自性は担保しつつも、ケースマネジメントを行ってほしい
	面接でコミュニケーションスキルを発揮できる（2）	未遂者との面接時に、企図に至った背景を言語化させるスキル 未遂者一人ひとりに合わせた説明の仕方
評価スキル	リスク評価スキル（4）	自殺企図前の患者の状況をアセスメントするスキル アセスメントスキル 自殺企図原因の構成づくり、問題関係のつながりをつくる
	意識障害・せん妄の評価スキル（3）	せん妄の診かた、見立ての方法 意識障害を評価できるスキル 認知機能を評価するスキルは有用
臨床現場での適応スキル	現場に合わせて動けるスキル（5）	現場の雰囲気の読み方 現場の状況に合わせて動けるスキル フットワークの軽さ 救急現場での立ち位置や働き方 色々な現場（部署）を渡り歩けるような対人スキル
	スタッフ間の調整役としてのスキル（4）	職種間の持つ見立てや評価を把握し、それをうまく統合する 教員内の力動をみて、うまくコミュニケーションをはかるスキル 看護スタッフへ、未遂者対応のアドバイスや陰性感情をうまくくみ取る スタッフ間のコミュニケーションを促す
	コンサルテーションのスキル（3）	評価して問題を改善するためのプランを提案するスキル 色々な心理療法を駆使したアドバイスを生徒や保護者に実践するスキル スーパーバイズとしての機能
	記録方法のスキル（2）	記録（カルテ）の書き方

CP に対して、医学や薬学、地域社会資源といった臨床心理学の枠組みを超えた幅広い知識を持つことが求めることが示された。また、他職種との積極的なコミュニケーションに加えて、自殺のリスク評価や危機介入といった、自殺の再企図予防に特化したスキルを駆使して自殺ハイリスク者を支援することが期待されていた。これら自殺未遂者の再企図予防に関する知識やスキル等の向上を図るトレーニングプログラムにより、自殺未遂者の再企図予防を実践する CP を体系的に育成していく必要性が示唆された。

(2) トレーニングプログラムの効果

トレーニングプログラム開始前と終了後における、知識尺度、準備性尺度、自己効力感尺度（GKSES）、自殺の危機介入スキル尺度（SIRI）短縮版の尺度得点の変化を調べるため、t 検定（対応あり）を実施した。その結果、トレーニングプログラム開始前後における、準備性尺度得点と自己効力感尺度（GKSES）得点に有意差が認められた（表３）。各尺度得点が、トレーニングプログラムの前後と 4 週間後で変化があったかを検討するため、1 要因 3 水準の分散分析を実施した。その結果、準備性尺度得点（F（2,12）= 23.68, p < 0.01）と自己効力感尺度（GKSES）得点（F（2,12）= 27.77, p < 0.01）に有意な変化が認められた。また、有意差は示されなかったものの、知識尺度得点と自殺の危機介入スキル尺度（SIRI）得点についても、トレーニングプログラム終了後と 4 週後において改善傾向が示された（図 1-4）。

表3．トレーニングプログラムの開始前と終了後における尺度得点の平均値

	開始前	終了後	t	p
知識尺度	8.43（1.27）	9.14（1.86）	1.70	0.14
準備性尺度	32.43（5.35）	42.86（2.91）	5.42	<0.01
自己効力感尺度（GKSES）	37.00（6.22）	47.43（2.64）	6.18	<0.01
自殺の危機介入スキル尺度（SIRI）	52.65（8.16）	49.30（3.85）	1.12	0.31

※（）は標準偏差

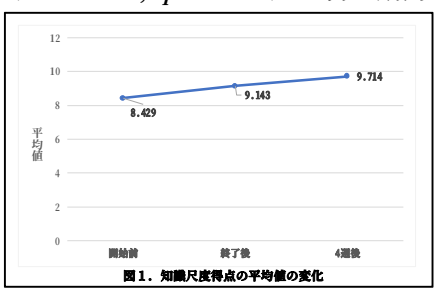

図１．知識尺度得点の平均値の変化

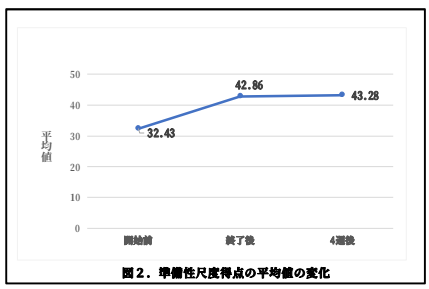

図２．準備性尺度得点の平均値の変化

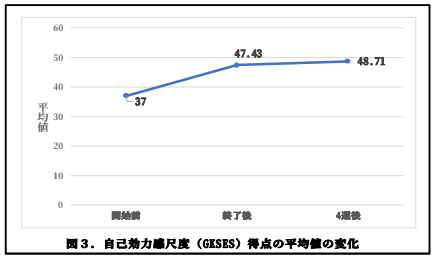

図３．自己効力感尺度（GKSES）得点の平均値の変化

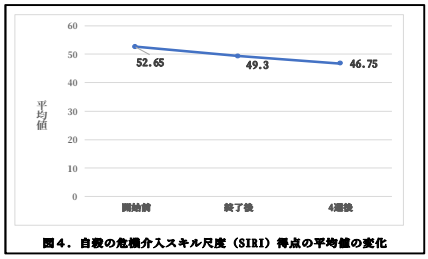

図４．自殺の危機介入スキル尺度（SIRI）得点の平均値の変化

本研究で開発されたトレーニングプログラムにより、CP に求められる自殺に関する知識や、自殺ハイリスク者の気持ちを傾聴し、自殺リスクを評価し、多職種と連携をとりながら必要な資源につなげる等の介入スキルの習得に寄与することが示唆された。つまり、自殺ハイリスクの状態にある患者への対応に向けた

準備を整え、自殺再企図予防に必要な一定の知識やスキルを現場で活かすことが可能となることが示された。

本研究期間中、新型コロナウィルス（COVID-19）感染症が全世界に急速に広がり、わが国においても、密閉空間を避け人との接触を控えることや物理的距離を取る等の感染対策が強く求められた。そのため、多くの CP が研究協力を断念もしくは消極的になり、トレーニングプログラムへの参加者数は 7 名と予定人数（15 名）を下回った。トレーニングプログラムの効果について統計学的な意味づけが難しくなり、研究対象者を増やして効果検証を行う必要性が生じたが、行動制限が長期化したことで、対面形式のトレーニングプログラムを行うことが難しい状況が続いた。こうした中、対面実施からオンラインやオンデマンドによるトレーニングプログラムの実施の可能性について検討が行われた。特に、オンデマンドによる動画等の配信は、時間や場所を問わず繰り返し学習することを可能にするとともに、コロナ禍に関わらず、個人の様々な事情から対面による研修受講が困難な人にも有益な学習ツールとなることが考えられた。そのため、オンデマンドで使用するトレーニングプログラムの教材作成や、その効果検証が今後の課題である。

【引用文献】

1) 高井美智子，松本俊彦（2015）．自殺対策とリスクマネジメント.下山晴彦,熊野宏昭,中嶋義文,松澤広和編:臨床心理学,金剛出版,59-63.
2) Kleespies, PM., & Ponce, AN. (2009). The stress and emotional impact of clinical work with the patient at risk. In Kleespies PM (Ed.), Behavioral emergencies: A evidence-based resource for evaluating and managing risk of suicide, violence, and victimization. American Psychological Association.
3) Rothes, IA., Henriques, MR., Leal, JB., et al. (2014). Facing a patient who seeks help after a suicide attempt: the difficulties of health professionals. Crisis 35: 110-122.
4) 三宅康史（2014）．救急医療における自殺未遂者ケアの現状と展望.公衆衛生 78：256-263.
5) 小高真美，福島喜代子，岡田澄恵ほか（2011）．自殺危機初期介入スキルワークショップの開発とその効果に関する予備的研究．自殺予防と危機介入 31：33-42.
6) 川喜田二郎（1997）． KJ 法入門コーステキスト　4.0　KJ 法本部・川喜田研究所.
7) 森田展彰，太刀川弘和，遠藤剛ほか（2015）．自殺予防におけるゲートキーパー自己効力感尺度（Gatekeeper　self－efficacy　scale, GKSES）の開発．臨床精神医学　44（2）：287-299.
8) 川島大輔，川野健治（2010）．自殺の危機介入スキル尺度（SIRI 日本語版）．臨床精神医学 39：851-858.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計13件（うち査読付論文　7件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 Inui-Yukawa Masami、Miyaoka Hitoshi、Yamamoto Kenji、Kamijo Yoshito、Takai Michiko、Yonemoto Naohiro、Kawanishi Chiaki、Otsuka Kotaro、Tachikawa Hirokazu、Hirayasu Yoshio	４．巻 304
２．論文標題 Effectiveness of assertive case management for patients with suicidal intent	５．発行年 2021年
３．雑誌名 Psychiatry Research	６．最初と最後の頁 114125～114125
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.psychres.2021.114125	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 小高真美、高井美智子、立森久照、太刀川弘和、眞﨑直子、髙橋あすみ、竹島正	４．巻 42
２．論文標題 自殺予防ゲートキーパーとして最小限求められる知識やスキルの検討とその評価尺度「自殺予防ゲートキーパー知識・スキル評価尺度（Suicide Prevention Gatekeeper Knowledge and Skills Assessment Scale（GKS））」の開発	５．発行年 2022年
３．雑誌名 自殺予防と危機介入	６．最初と最後の頁 36～46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 竹島正、小高真美、高井美智子、山内貴史	４．巻 50
２．論文標題 【自殺行動の背景と自殺防止対策】自殺と自殺未遂について 川崎市における調査研究をもとに	５．発行年 2021年
３．雑誌名 臨床精神医学	６．最初と最後の頁 561～566
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 清水美砂子、高井美智子、上條吉人	４．巻 36
２．論文標題 【行政や様々な公的機関等との協働-円滑な連携と関係構築のために-】消防機関と精神科医療機関との連携	５．発行年 2021年
３．雑誌名 精神科治療学	６．最初と最後の頁 775～778
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 喜屋武玲、高井美智子、芳賀佳之	4．巻 33
2．論文標題 市販薬による急性カフェイン中毒の疫学的および臨床的特徴	5．発行年 2020年
3．雑誌名 中毒研究	6．最初と最後の頁 327～334
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小高真美、高井美智子、太刀川弘和、立森久照、宇田英典、坂元昇、辻本哲士、竹島正	4．巻 67
2．論文標題 自治体における自殺予防のためのゲートキーパー研修の実施と評価に関する実態調査	5．発行年 2020年
3．雑誌名 厚生の指標	6．最初と最後の頁 27～32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 徳丸 享、高井 美智子	4．巻 29
2．論文標題 パンデミックと自死予防 国の取り組みとこれからの心理支援	5．発行年 2020年
3．雑誌名 日本臨床心理士会雑誌	6．最初と最後の頁 64～65
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 高井美智子、川本静香、山内貴史、川野健治、小高真美、福永龍繁、松本俊彦、竹島正	4．巻 39
2．論文標題 自殺発生から間もない遺族に求められる支援の探索的検討	5．発行年 2019年
3．雑誌名 自殺予防と危機介入	6．最初と最後の頁 124～131
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 高井美智子	4．巻 22
2．論文標題 過量服薬の心理社会的要因‐臨床心理士の視点から　特集　過量服薬A to Z	5．発行年 2019年
3．雑誌名 臨床精神薬理	6．最初と最後の頁 261～268
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 高井美智子、竹島正、日隈励、田熊清継、齋藤寿昭、松田潔、岸泰宏、平泰彦、古茶大樹、張賢徳	4．巻 39
2．論文標題 【シンポジウム】自損救急搬送と自殺企図、故意の自傷～神奈川県川崎市における自損事故救急搬送事例調査を中心に～	5．発行年 2019年
3．雑誌名 自殺予防と危機介入	6．最初と最後の頁 35～40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Kamijo Yoshito、Takai Michiko、Fujita Yuji、Usui Kiyotaka	4．巻 57
2．論文標題 A Retrospective Study on the Epidemiological and Clinical Features of Emergency Patients with Large or Massive Consumption of Caffeinated Supplements or Energy Drinks in Japan	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Internal Medicine	6．最初と最後の頁 2141～2146
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.2169/internalmedicine.0333-17	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Kodaka Manami、Hikitsuchi Emi、Takai Michiko、Okada Sumie、Watanabe Yasue、Fukushima Kiyoko、Yamada Mitsuhiko、Inagaki Masatoshi、Takeshima Tadashi、Matsumoto Toshihiko	4．巻 54
2．論文標題 Current Implementation of and Opinions and Concerns Regarding Suicide Education for Social Work Undergraduate Students in Japan: A Cross-Sectional Study	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Journal of Social Work Education	6．最初と最後の頁 79～93
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/10437797.2017.1314837	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 竹島正、高井美智子、岸泰宏、右田佳子、日隈励、張賢徳	４．巻 41
２．論文標題 神奈川県川崎市における自殺対策の取り組み－行政を含めた精神科救急・ケア体制構築の取り組み－	５．発行年 2017年
３．雑誌名 救急医学	６．最初と最後の頁 552～558
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計26件（うち招待講演　12件／うち国際学会　4件）

１．発表者名 高井美智子
２．発表標題 未遂者支援における家族との関わり
３．学会等名 新型コロナウイルス（COVID-19）感染症の世界的流行後における 自殺予防・遺族支援のあり方に関する学際的研究集会（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 高井美智子、喜屋武玲子、芳賀佳之、上條吉人
２．発表標題 市販薬の過量服用により救急医療施設に搬送された患者の依存・乱用ならびに心理社会的特徴について
３．学会等名 第35回日本総合病院精神医学会総会（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 高井美智子
２．発表標題 コロナ禍における自殺未遂者対応－中毒症例に焦点をあてて－
３．学会等名 第35回日本総合病院精神医学会総会（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 高井美智子、喜屋武玲子、芳賀佳之、上條吉人
２．発表標題 市販薬の過量服用で救急医療施設に搬送された患者の実態 -依存・乱用と自殺リスクについて-
３．学会等名 第46回日本自殺予防学会総会
４．発表年 2022年

１．発表者名 高井美智子
２．発表標題 「助けて」に応える相談－ ICT 、電話、対面による対話 自殺未遂者支援
３．学会等名 第46回日本自殺予防学会総会（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 高井美智子
２．発表標題 【話題提供】 コロナ禍での若年者の自殺未遂
３．学会等名 第2回かわさき地域共生・学際研究ネットワーク（KID）ミーティング（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 高井美智子、竹島正、廣田奈津子、橋本貢河、植木美津枝、武田博子、塚田和弘、上原嘉子、伊藤滋朗、岸泰宏、玄東和、水野康弘、張賢徳
２．発表標題 自殺未遂者の地域支援活動―川崎市のモデル事業について―
３．学会等名 第18回日本うつ病学会総会（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 高井美智子、喜屋武玲子、芳賀佳之、上條吉人
２．発表標題 救急医療施設に搬送された市販薬中毒の依存・乱用に関連する心理社会的要因について
３．学会等名 第34回日本総合病院精神医学会総会（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 高井美智子、岩瀬哲、芳賀佳之
２．発表標題 病院内での自殺対策－医療機関でのポストベンションを中心に－
３．学会等名 第33回日本総合病院精神医学会総会（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 高井美智子
２．発表標題 急性中毒患者の自殺再企図予防における臨床心理士の役割
３．学会等名 第33回日本総合病院精神医学会総会（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 高井美智子、芳賀佳之
２．発表標題 新型コロナウィルス感染拡大化の自殺対策の現場報告 ①救命救急の現場から
３．学会等名 自殺予防と自死遺族支援・調査研究研修センター 第1回オンライン研修会（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 高井美智子
２．発表標題 多職種関連シンポジウム ～多職種で挑む中毒診療の『わ』～ 中毒診療における臨床心理士の役割 ～救急医療の現場における過量服薬を中心に～
３．学会等名 第41回日本中毒学会総会・学術集会（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 高井美智子、川本静香、川島義高、芳賀佳之、上條吉人
２．発表標題 自殺企図手段へのアクセスの制限に向けた支援プログラムの開発
３．学会等名 第43回日本自殺予防学会総会
４．発表年 2019年

１．発表者名 Takai Michiko、Kawamoto Shizuka、Kawashima Yoshitaka
２．発表標題 Exploration of knowledge and skills that contribute to support for suicide attempters by clinical psychologists
３．学会等名 IASR/AFSP International Summit on Suicide Research Suicide Prevention Research（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Kodaka Manami、Hikitsuchi Emi、Takai Michiko、Okada Sumie、Watanabe Yasue、Kato Masae、Fukushima Kiyoko、Matsumoto Toshihiko、Yamada Mitsuhiko、Takeshima Tadashi
２．発表標題 Feasibility of a teaching manual used to conduct a suicide prevention training program for undergraduate social work students by social work teachers
３．学会等名 IASR/AFSP International Summit on Suicide Research Suicide Prevention Research（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 伊藤滋朗、岸泰宏、上原嘉子、張賢徳、高井美智子，倉本哲義、島田和代、小林聡美、野木珠美、小泉朋子、竹田博子、竹島正、津田多佳子、植木美津枝、大塚俊弘
２．発表標題 川崎市自殺未遂者支援地域連携モデル構築事業の紹介
３．学会等名 第16回 日本うつ病学会
４．発表年 2019年

１．発表者名 高井美智子、日隈励、田熊清継、松田潔、岸泰宏、平泰彦、竹島正
２．発表標題 川崎市における自損救急搬送事例調査をもとにした自殺未遂者支援体制の検討
３．学会等名 第21回日本臨床救急医学会総会
４．発表年 2018年

１．発表者名 高井美智子、竹島正、日隈励、田熊清継、齋藤寿、松田潔、岸泰宏、平泰彦、古茶大樹、張賢徳
２．発表標題 【シンポジウム】自損救急搬送と自殺企図、故意の自傷～神奈川県川崎市における自損事故救急搬送事例調査を中心に～
３．学会等名 第42回日本自殺予防学会総会（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 高井美智子，川本静香，川島義高，松本俊彦，上條吉人
２．発表標題 臨床心理士による自殺未遂者支援の現状と今後期待される役割について
３．学会等名 第42回日本自殺予防学会総会
４．発表年 2018年

１．発表者名 小高真美、高井美智子、太刀川弘和、立森久照、宇田英典、坂本昇、辻本哲士、竹島正
２．発表標題 自治体における自殺予防のためのゲートキーパー研修の実施状況および評価に関する調査研究
３．学会等名 第42回日本自殺予防学会総会
４．発表年 2018年

１．発表者名 高井美智子、川本静香、川島義高、松本俊彦、上條吉人
２．発表標題 臨床心理士による自殺未遂者支援に資する知識とスキルの検討
３．学会等名 日本心理学会第82回大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 高井美智子、日隈励、岸泰宏、竹島正
２．発表標題 民学官連携による自殺未遂者の実態把握に向けた新たな取組み：川崎市における自損事故救急搬送事例調査
３．学会等名 第20回日本臨床救急医学会総会
４．発表年 2017年

１．発表者名 高井美智子、竹島正、日隈励、田熊清継、齋藤寿昭、松田潔、岸泰宏、平泰彦、古茶大樹、張賢徳
２．発表標題 川崎市における自殺未遂者支援構築に向けた新たな取り組み～自損事故救急搬送事例調査～
３．学会等名 第41回日本自殺予防学会総会
４．発表年 2017年

１．発表者名 小高真美、引土絵未、高井美智子、岡田澄恵、渡辺恭江、加藤雅江、福島喜代子、松本俊彦、山田光彦、竹島正
２．発表標題 ソーシャルワーカーを目指す学生が自殺リスクのあるクライエントの支援に備えるために開発された自殺予防教育プログラム普及のための研究
３．学会等名 第41回日本自殺予防学会総会
４．発表年 2017年

１．発表者名 Takai M, Kawamoto S, Yamauchi T, Kawano K, Kodaka M, Fukunaga T, Matsumoto T, Takeshima T
２．発表標題 Exploration of support needs for bereaved family shortly after suicide: The psychological autopsy study in Japan
３．学会等名 29th World Congress of the International Association for Suicide Prevention（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Kodaka M, Matsumoto M, Takai M, Yamauchi T, Kawamoto S, Kikuchi M, Tachimori H, Katsumata Y, Shirakawa N, Takeshima, T
２．発表標題 Suicide risk among individuals who verbally express their own death: a case-control psychological autopsy study in Japan
３．学会等名 29th World Congress of the International Association for Suicide Prevention（国際学会）
４．発表年 2017年

〔図書〕　計2件

１．著者名 日本臨床救急医学会「自殺企図者のケアに関する検討委員会」	４．発行年 2021年
２．出版社 へるす出版	５．総ページ数 280
３．書名 妊産褥婦メンタルケアガイドブック　自殺企図、うつ病、育児放棄を防ぐために	

１．著者名 日本臨床救急医学会、PEECガイドブック改訂第2版編集委員会	４．発行年 2018年
２．出版社 へるす出版	５．総ページ数 320
３．書名 PEECガイドブック ： 救急現場における精神科的問題の初期対応 ： 多職種で切れ目のない標準的ケアを目指して	

〔産業財産権〕

〔その他〕

高井 美智子 - 研究者 - researchmap
https://researchmap.jp/mt0830/

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	川本　静香 (Kawamoto Shizuka)		
研究協力者	川島　義高 (Kawashima Yoshitaka)		

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関